

昇経が説くように「治に居て乱を忘れず」の故事は株式投資・トレードでも極めて重要である。株価は上がる時には坂道を上るようにゆつくりと時間をかけながら「努力」して上げるが、下げるときには下り坂や崖を駆け落ちるよつに「崩壊」する場合が多い。実戦経験の少ない人や十分訓練されていない人はパニックあるいは放心状態となり無為無策でただ茫然とするしかない。

実学の株式投資技術の必要性(20)

予め理解しておくレバニツクにならないだけでなく、逆にピンチをチャンスに変えることもできる。人が恐怖を感じるのはその恐怖の対象の正体がわからないからである。

お化け屋敷のお化けを子供が怖がるのは人間が着ぐるみを被っているということを知らないからであり、それを理解している大人は怖がるどころかむしろ楽しむ余裕さえある。株価下落時にも同じことが言える。株価はフェア・バリュエーション(理論株価)を大幅に超えてくると次第に頭打ちになり次第に下げ始める。しかし、しばしばフェア・バリュエーションまで上げる途中で横ばいが続いた後、突如下げ始める時がある。それは不意

関連した悪材料が次々と出てくる。さらに恐怖が増し、今まで売らずに堪えていた人たかも売りに殺到する。熟練したプロ・トレーダーはこの機会を見逃さず空売りで仕掛ける。株価はさらに急落する。

しかし、株価はいつまでも下げ続けない。なぜなら株価が大きくと下げると、期待リターンが大きくと上昇するからだ。企業が倒産しない限り、安くなればなるほど期待リターンは高くなる。期待リターンが十分高くなれば、大多数の人が恐怖からまた抜け出せずにパニック状態にあつても、逆張り買い向かう人(コントラリアン)も徐々に増えてくる。やがて、安値を更新しなくなり、底値圏での比較的小さな上下動を繰り返すようになる、あるいは横ばいが続く。下げ過程で空売りの信用売り玉を積み上げてきた熟練プロ・トレーダーはこの時点までに買い戻す。やがて新規に追加

株式投資・トレード

「治に居て乱を忘れず」

ともしばしばである。しかし、株価が下げる時、どのようなメカニズムでどのような過程で下がるのかを



愛知淑徳大学 学部教授 三矢 幹根
ビジネス

に何らかの強力な悪材料が飛び出して来たときである。例えば、伝染病のパンデミック、大きな戦争、ある一部の銀行の信用不安が高まった結果、取り付け騒ぎが起って預金が急速に流出し始める。すると、その取り付け騒ぎが他の銀行にも拡大感染して行くような「金融のシステムミック不安」などである。まず、恐怖に駆られてほとんどの人は持ち株を一目散に売る。このような局面では、通常、

関連した悪材料が次々と出てくる。さらに恐怖が増し、今まで売らずに堪えていた人たかも売りに殺到する。熟練したプロ・トレーダーはこの機会を見逃さず空売りで仕掛ける。株価はさらに急落する。

しかし、株価はいつまでも下げ続けない。なぜなら株価が大きくと下げると、期待リターンが大きくと上昇するからだ。企業が倒産しない限り、安くなればなるほど期待リターンは高くなる。期待リターンが十分高くなれば、大多数の人が恐怖からまた抜け出せずにパニック状態にあつても、逆張り買い向かう人(コントラリアン)も徐々に増えてくる。やがて、安値を更新しなくなり、底値圏での比較的小さな上下動を繰り返すようになる、あるいは横ばいが続く。下げ過程で空売りの信用売り玉を積み上げてきた熟練プロ・トレーダーはこの時点までに買い戻す。やがて新規に追加

で出てくる悪材料は少なくなり、人々も既知の悪材料に徐々に慣れてきて、遂には悪材料出尽くしとなる。その頃には既に株価は少しだけ上昇し始めており、安値の更新が止まり株価は横ばいとなる。そのうちに少しばかりの好材料が出てくると、上昇に弾みが付く。それを見てさらに多くの投資家が買い始めるので急上昇が始まる。株価とともに出来高も急上昇してランキング上位に躍り出る。こうなるとますます買いを集めるため上昇が加速する。

みつや・みきね コーポレートファイナンス・証券投資論・株式投資・トレード技術。元ドイツ銀行名古屋支店支配人。英国リース大学経営学大学院・MBA (Finance)。1950年生まれ。

このように局面では、通常、